



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2

(代表電話) 03-3964-1141

(予約専用電話) 03-3964-4890

ホームページ <https://www.tmg Hig.jp/>

第179号 (令和7年2月号)

## 新年のご挨拶

東京都健康長寿医療センター センター長

あきした  
秋下

まさひろ  
雅弘



新年おめでとうございます。日頃より外来・入院診療でお世話になっております。年頭のご挨拶がてら、抱負を述べさせていただきます。

### ・高度医療の推進

1. ロボット手術：昨年秋に手術支援ロボット（ダヴィンチ）を導入し、呼吸器外科で開始しました。泌尿器科、外科でも順次開始します。
2. アルツハイマー病の抗体薬治療：レカネマブ治療を都内で一早く行いましたが、昨年11月に発売されたドナネマブ治療も開始しました。
3. 人工内耳手術：耳鼻咽喉科で昨年開始した人工内耳手術を周知、拡大します。

### ・地域医療の支援

1. 救急体制：体制を整備して救急車の受け入れを増やします。
2. 循環器ホットラインの活用：近隣医療機関からホットラインで心血管病を受け入れる体制作りを進めます。
3. 大腿骨頸部骨折：整形外科と高齢診療科が協力して、手術と術後管理を行う体制を充実させます。
4. 脳卒中对応：脳卒中専門病棟を昨年15床まで拡大し、今年もしっかり受け入れます。

### ・病床機能の充実

1. 緩和ケア病棟：20床（全個室）に増床し、看取り、レスパイト、お試し入院など、多様に活用いただけます。
2. 面会制限：感染対策のための面会制限を状況に応じて緩和していきます。

当センターは皆様の健康長寿達成に向けて、最新の医療を取り入れつつ、安心かつ安全な医療を提供してまいります。どうか今年一年もよろしく願いいたします。

令和7年正月

# 軽度認知障害（MCI）とアルツハイマー病新薬について解説します



脳神経内科 医長 **井原 涼子** いはら りょうこ

## 軽度認知障害（MCI）とは？

新薬の登場に伴い、軽度認知障害（MCI：エムシーアイ）という単語を耳にする機会が増えてきました。MCIとは、認知機能障害は見られるけれども日常生活の自立は保たれている状態を指します。もう少し平たく表現すると、もの忘れが繰り返し見られ、家族から指摘されるようになった、でも服薬管理や金銭管理など生活面では人の目や手を借りなくてもこなせる状態と言えます。認知症の手前の段階として注目されています。

## アルツハイマー病とは？

認知症やMCIの原因となる疾患のうち、最も頻度が高いものがアルツハイマー病です。もの忘れが目立つという臨床的な特徴の他、大脳、特に記憶をつかさどる海馬付近が萎縮することが良く知られています。しかしながら、アルツハイマー病の最大の特徴は、脳の中にアミロイドβと呼ばれるたんぱく質が蓄積することです。アミロイドβこそ発症に中心的な役割を担っています。これはCTやMRIといった検査では検出できないミクロの世界で起こる現象です。従来は、残された神経細胞間の連絡を強化する薬しかなく、進行を抑えることはできませんでしたが、アルツハイマー病の分子的なメカニズムに作用する薬が登場しました。



## アルツハイマー病の新薬・レカネマブとドナネマブ

2023年12月にレカネマブ、2024年11月にドナネマブが登場し、アルツハイマー病の治療が大きく変わってきました。レカネマブやドナネマブは、抗アミロイドβ抗体と総称される、アミロイドβを除去する薬です。それによって、進行を抑制する効果が期待できます。進行を完全に止めるほどの強い効果はないのですが、自分らしく楽しんで生活できる期間を引き延ばすことができます。ただし、従来の治療とはいくつかの点で異なる薬です。



### ① 主な対象は軽度認知障害

レカネマブやドナネマブの適応は、「アルツハイマー病による軽度認知障害または軽度の認知症」です。従来の治療薬よりも早いタイミングで用います。

### ② アルツハイマー病にしか効かない

アミロイドβの蓄積がある人にしか効果がありませんので、アミロイドβの蓄積を調べる検査を行います。専門医が臨床的にアルツハイマー病だろうと思っても、アミロイドβが溜まっていないというケースも実は3割程度あります。

### ③ 静脈からの点滴で投与する

レカネマブは2週毎、ドナネマブは4週毎に静脈からの点滴で投与します。すなわち、点滴のための通院が必要になります。

### ④ 副作用に注意が必要

レカネマブやドナネマブは、アミロイドβを除去するという作用に関連して、脳のむくみや脳の小さな出血（稀に脳出血）といった副作用が生じることがあります。副作用に備えて定期的にMRIを実施します。

## ⑤ 高額である

レカネマブやドナネマブは年間 300 万円程度の薬剤費用がかかります。もちろん保険適用になりますので、多くの方は自己負担を月 18,000 円に抑えることができますが、3 割負担の方は自己負担額が高くなる場合があります。

## 専門外来でレカネマブやドナネマブの治療を提供しています

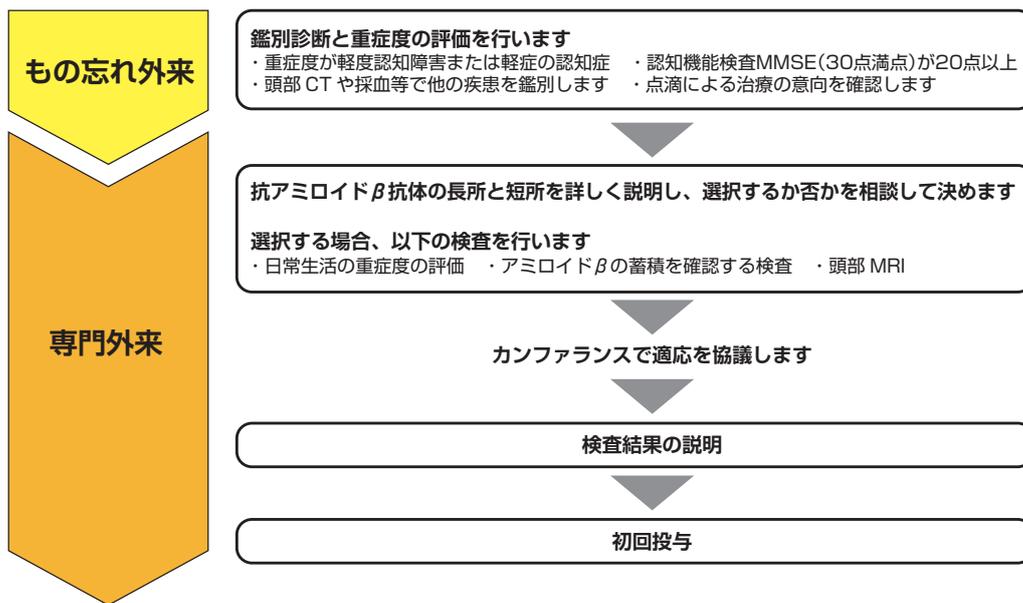
前述のように、レカネマブやドナネマブの治療には様々な注意が必要になりますので、当センターでは多職種で連携して治療にあたっています。図に診療の流れをお示しします。2023 年 12 月の専門外来開設以降、1 年間で 95 人の患者さんに対して、治療を始めています。地域の認知症疾患医療センターとして、希望される患者さんに対して治療を提供できるよう、院内の連携のみならず、地域での連携も強化しています。

新薬による治療を希望される方は、予約専用電話（03-3964-4890）へお電話いただき、「アミロイドβ抗体（あるいはレカネマブまたはドナネマブ）希望」とお伝えください。

診療の流れについて詳細▼



## 当センター受診から治療開始までの流れ



## 特設ホームページ「アルツハイマー型認知症の新しい薬ができました」

認知症抗体医薬のうち、現在わが国で保健適用のある「レカネマブ」「ドナネマブ」について正しく理解いただけるよう、アルツハイマー病に関する様々な知識や治療に関する情報等をあわせて、正確に分かりやすく掲載しています。

都民の皆様はもちろん、医療・介護関係者の皆様など、どなたでもご覧いただけます。



編集・発行  
 ・東京都福祉局高齢者施策推進部在宅支援課  
 ・東京都健康長寿医療センター認知症支援推進センター  
 監修  
 ・地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター  
 脳神経内科 井原涼子



# 冬に流行する感染症と予防のポイント

感染管理認定看護師

空気が乾燥し寒くなる冬は、インフルエンザや新型コロナが流行する季節です。感染を防ぐためには鼻やのどの粘膜からウイルスの侵入を防ぐことが重要です。そこで、ウイルスの侵入を防ぐポイントを紹介します。

## 予防策1 人ごみに出かける時や自分に症状がある時はマスクを着用しよう

マスクは鼻やのどの粘膜からウイルスが侵入することを防ぐ効果があります。また、自分に症状がある時にマスクを着用することで、周囲にウイルスを拡散することを防ぐこともできます。着用のポイントは、鼻のクリップをしっかり鼻の形に曲げて、顔に密着させることです。



## 予防策2 外出後や食事の前、トイレの後はしっかり手を洗おう

ウイルスが付いた手で鼻の粘膜に触れたり食事をすると、体内にウイルスが侵入する可能性があるため、手を洗いウイルスを落とすことが重要です。洗い残しやすい部分を意識して外出後や食事の前、トイレの後はしっかり手を洗いましょう。当センターのYouTubeチャンネルに手洗い動画をアップしているので、ぜひ参考にしてみてください。



手洗い動画  
「替え歌で覚える正しい手洗い歌」



## 予防策3 定期的に部屋の換気をしよう

寒い冬は部屋を閉め切ってしまうがちですが、閉め切った室内はウイルスが滞留しやすくなります。ウイルスが滞留しないよう1時間に1回程度、窓を開けて空気を入れ替えましょう。

今回紹介した「マスクの着用」「手洗い」「換気」の3つを実践し、冬の感染症を防いでいきましょう。

# コメディカル紹介 ～臨床検査技師編～

臨床検査科部長  
病理診断科部長・臨床検査科専門部長  
臨床検査科技師長

ちば  
千葉  
あらい  
新井  
さいとう  
齊藤

ゆうこ  
優子  
とみお  
富生+  
つよし  
剛



## 臨床検査科について

臨床検査科は、医師 2 名、臨床検査技師（36 名）看護師（4 名）で検体検査、生理機能検査、外来採血業務を担当しています。

## 検体検査

検体検査は、血液、尿、髄液、喀痰、便等の検体を検査しています。

検査目的により血液検査、一般検査、生化学・免疫検査、細菌検査に専門分野が分かれています。

貧血や炎症の有無や血液や尿中の蛋白質、電解質、酵素（AST,ALT 等）、脂質、糖、ホルモン、腫瘍マーカー、感染症検査（肝炎ウイルス他）等を検査しています。細菌検査では、細菌の培養・同定、抗生剤の効果判定、インフルエンザや新型コロナ等のウイルスについても検査をしています。

## 生理検査

検査受付は、2 階生理検査受付（25 番カウンター）です。

検査内容は、心電図、肺機能、脳波、筋電図、聴力、超音波等の検査を行っています。超音波は、腹部、心臓、頸動脈、下肢血管、乳腺、甲状腺、体表と幅広い領域の検査をしています。

## 外来採血・採尿

採血室は、午前 8 時より業務を開始し、診療前採血や術前検査等、外来患者さんの採血を看護師と共同で採血をしています。検査受付は、1 階の中央採血室（16 番カウンター）です

## 当直業務

当センターは、救急指定病院のため、365 日 24 時間体制で緊急検査を行っております。また、緊急手術等多量輸血が必要時には、職員を緊急登院させ緊急輸血対応を実施しております。

血液検査



血液像鏡検



超音波検査



## まとめ

臨床検査科は、日頃より迅速・正確な検査を心がけ、パニック値（即座に対応が必要な異常値）の発見時には直ちに主治医に報告し診療支援に努めています。また、チーム医療の一員として院内感染対策等に参加をしています。

## ヒートショックとは

室温や気温の急激な変化に伴う血圧などの循環動態の大きな変動、これによって起こる健康被害のこと。主に入浴時のことを指します。



## どのようなとき、どのような人に起こりやすいか

監察医務院での調査では、平成17年～26年の10年間の検案数をみると、入浴関連死では65歳以上の高齢者の割合が男性で84.2%、女性で92.8%と大半を占めます。

入浴関連死検案例の季節変動をみると、10月から徐々に数が増え始め12月から2月の冬場の寒い時期が夏場の約7倍となっています。(文献：濱松晶彦：日常生活事故を科学する 浴室内の事故、監察医の目線から)

## 予防法

入浴関連死の大半は高齢者が占めますが、入浴関連死の原因として従来考えられていた心疾患や脳卒中は実は数が少なく、溺死が多いことが分かっています。もともと元気で自立している方が入浴中に意識消失し、亡くなってしまうこともあります。つまり、生来健康である方も油断はできません。入浴関連死の予防対策として安全な入浴法を実践しましょう。

## 安全な入浴のための注意事項

1. 脱衣所やお風呂場は、あらかじめ暖房をつけたり、お風呂のふたを開けておくなどして、温かくしておきましょう。
2. お風呂の温度は39～41℃くらいにし、長湯をしないようにしましょう。
3. 体調が悪いときや、食事の直後、飲酒後の入浴は控えましょう。
4. 早朝や深夜など、家族の目の届かない時間帯の入浴は避けましょう。
5. 半身浴がおすすめです。(特に、心不全や脳血管疾患の病気を持つ場合は意識しましょう)
6. 高齢者が入浴するときは、家族が5分ごとに声をかけたり、様子を見に行きましょう。
7. これまでに意識障害に陥ったことがある方は特に注意が必要です。お風呂のふたをして腕をかけられるようにするなど、溺れない工夫をしましょう。また、お風呂から出るまで見守ることも大切です。



ヒートショックについて  
より詳しい解説▶

